

施設再編を考えるシンポジウム

～区長とともに考えよう「未来へつなぐ公共施設のカたち」～

令和5年8月12日（土）
杉並区政策経営部企画課
施設マネジメント担当

○ 目次

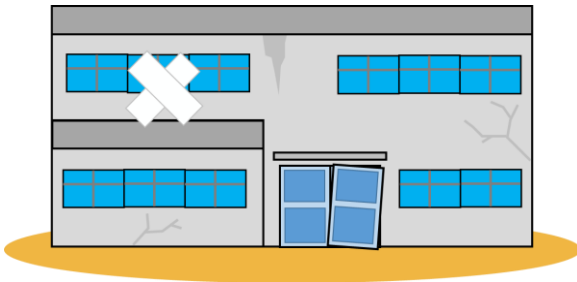
- 1、 検証にあたってのこれまでの振り返り
- 2、 施設再編整備計画の検証の取組
- 3、 検証過程で見えてきた今後の方向性
(これからの施設整備の進め方)

1、検証にあたってのこれまでの振り返り

○ 区立施設の抱える課題

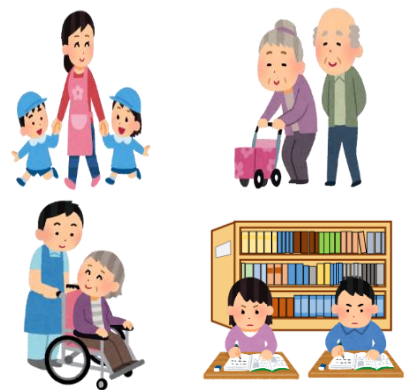
① 施設の老朽化

老朽化した建物が数多くあり、次々と更新時期を迎えます。



② 区民ニーズの変化への対応

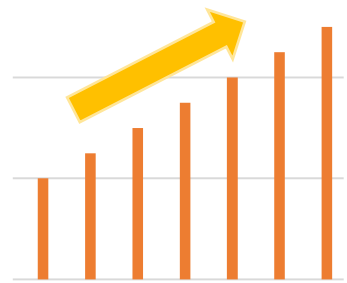
時代の変化に合わせてライフスタイルが変わり、施設に対するニーズも変わっています。



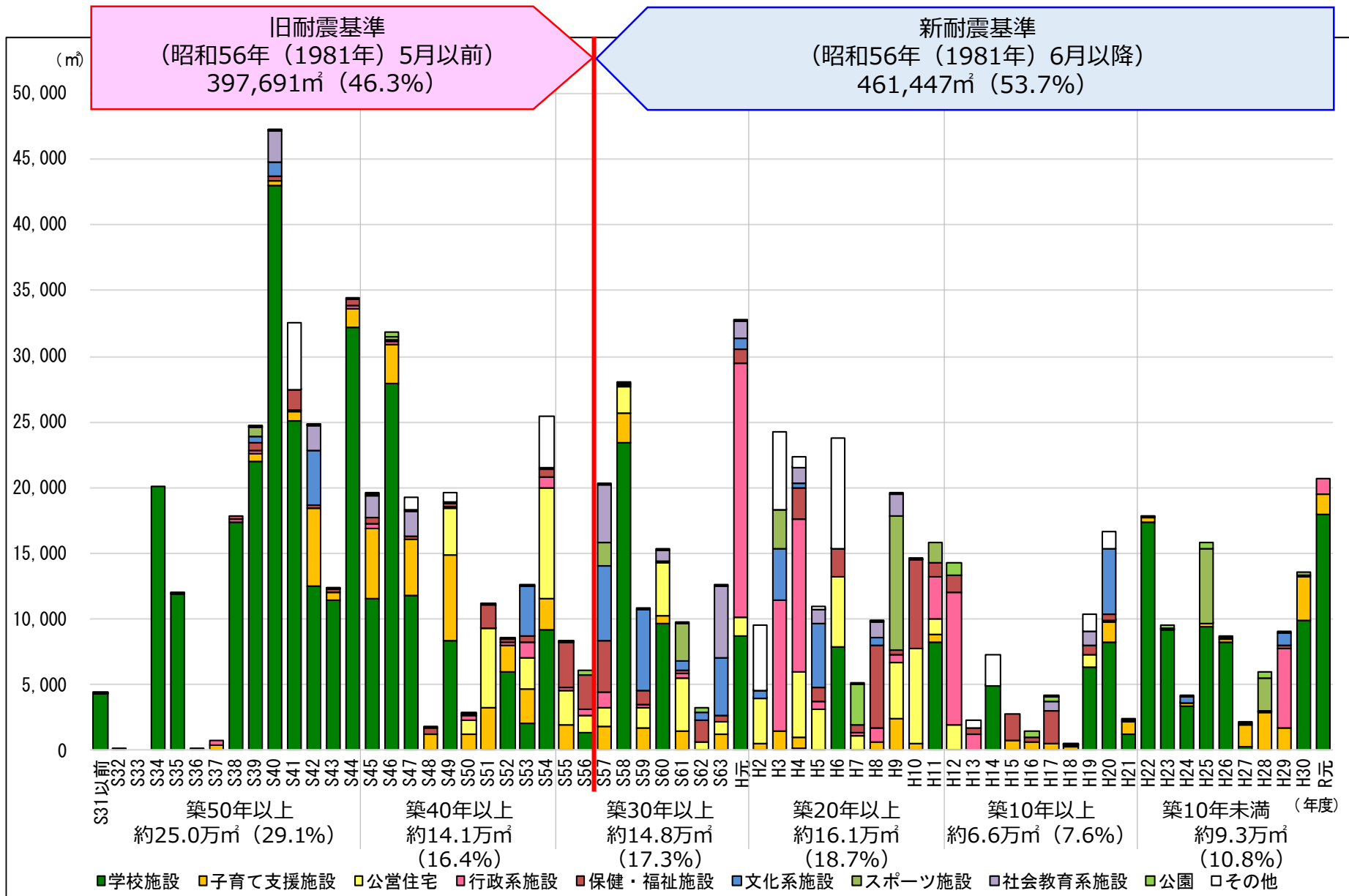
③ 限られた財源の中での施設整備

将来的な人口減少による税収減、社会保障関連経費の増加などが見込まれ、施設に使える予算を現在と同様の水準で確保することが難しくなります。

社会保障関連経費



区立施設の建築年度



※グラフについては、令和2年度固定資産台帳のデータを基に作成

○ 区立施設の老朽化

- ・ 昭和30～40年代に建築された施設が多くあり、築50年以上の建物が全体の**約3割**を占め、築30年以上の建物は**約6割**となっており、**区立施設全体の老朽化が進んでいます。**
- ・ 築年数に応じた施設規模の分布を見ると、区立施設は今後まさに**改築時期のピーク**を迎えます。

どのように区立施設を更新するのか、
計画を立てて考えていく必要があります。

○ 今後の改築・改修経費の試算

(億円)

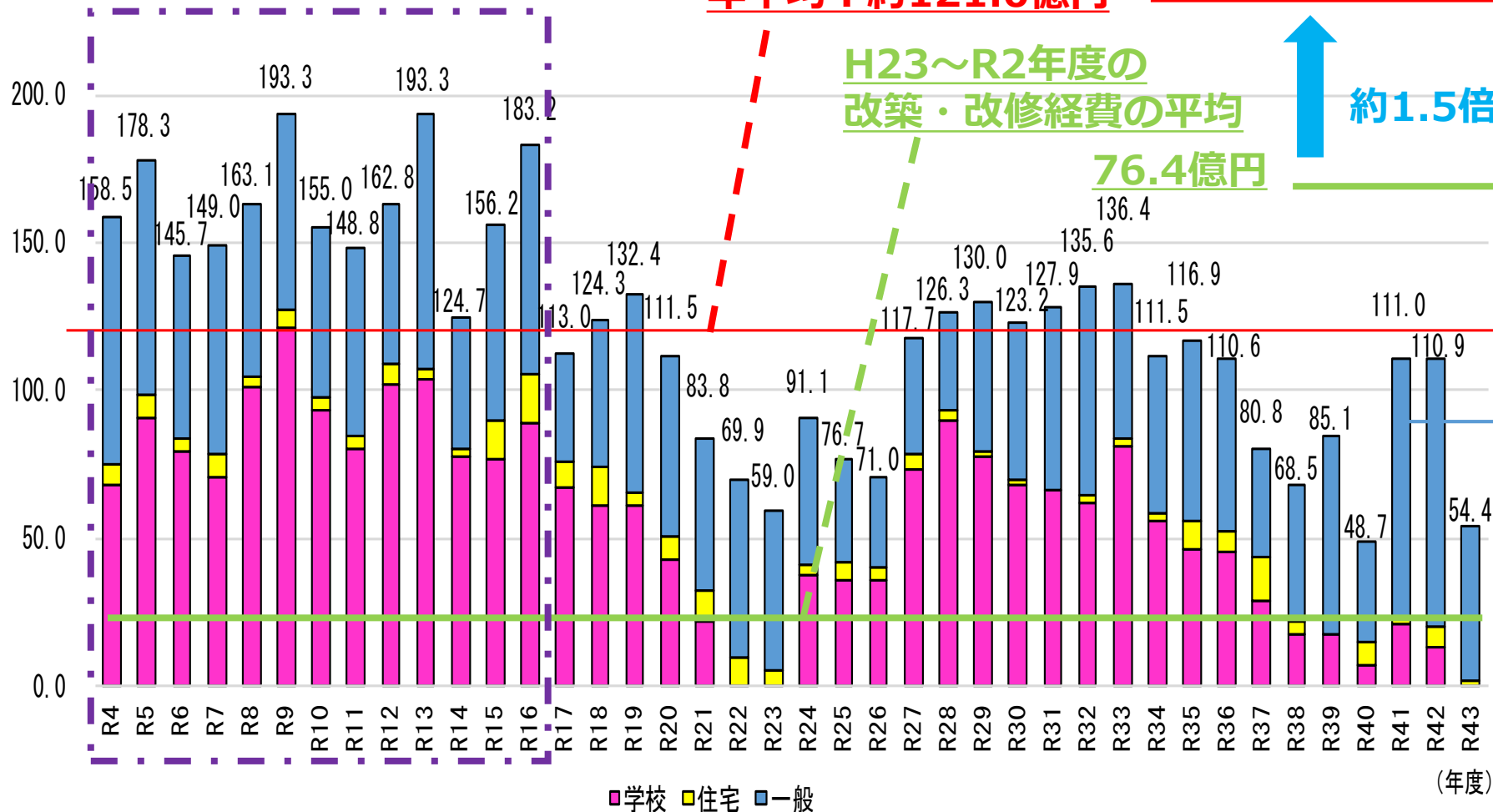
今後10年程度の期間
に改築時期が集中

40年間で約4840.0億円

年平均：約121.0億円

H23～R2年度の
改築・改修経費の平均
76.4億円

約1.5倍



○ 限られた財源の中での施設整備

人口減少・少子化
生産年齢人口
の減少

↓

区の税収が減る

社会保障関連経費
福祉や医療にかかる
お金が増えている

↓

出るお金が増える

改築・改修経費
老朽化の進行
改築・改修時期の集中

↓

施設の更新経費が
増加

どのくらい減るのか
予測が難しい
(不安定)

令和3年度
特別区税額 → **674億円**

30年後の
特別区税額 → **??**

義務的経費は
増え続けている

令和3年度
扶助費 → **721億円**

↑ **約2倍**

平成23年度
扶助費 → **365億円**

40年間で
約4,840億円

今後40年間の
年平均
(試算) → **約121億円**

↑ **約1.5倍**

平成23年～
令和2年度
の年平均 → **76.4億円**

○ 進めなければならない施設の更新

施設の老朽化



改築・改修時期の到来



財源が不足する可能性（不安定）



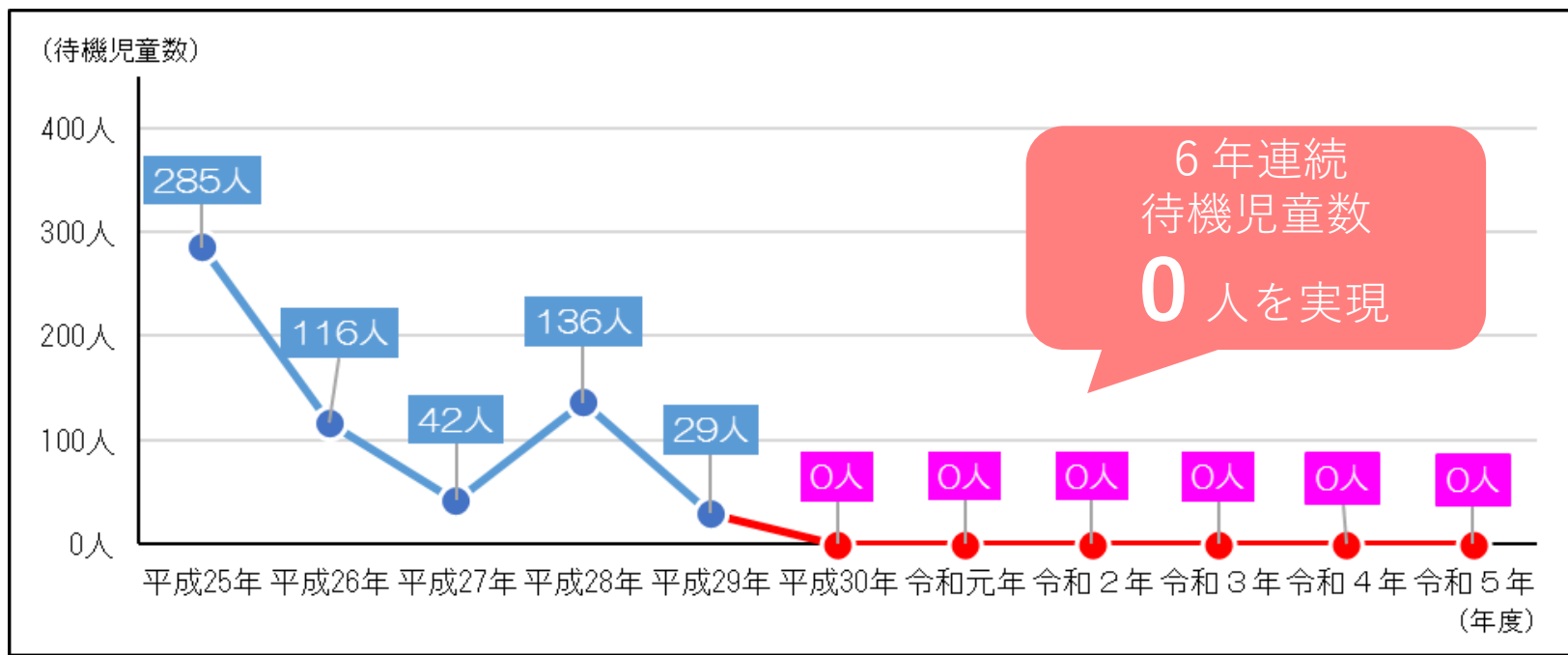
計画的な施設の更新・整備が必要



区立施設再編整備計画の策定

○ これまでの区の取組（行政ニーズへの対応）

【待機児童対策】



【特別養護老人ホームの整備】

施設数が少なく入所可能人数が不足していましたが、平成24年度からの10年間において目標としてきた**1,000床**の特別養護老人ホームの整備を達成しました。

○ これまでの区の実施（長寿命化の実施①）

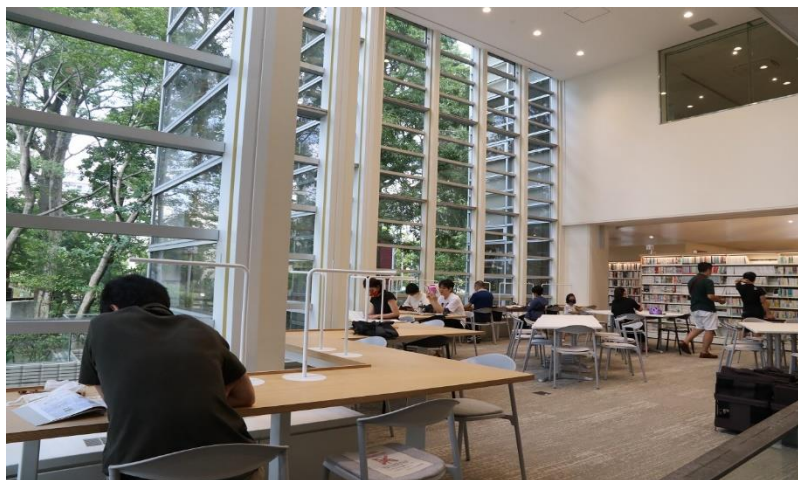
【中央図書館（令和2年9月 リニューアルオープン）】



（「本の広場」の新設）

○外構にはウッドデッキを敷設した「本の広場」を整備し、既存樹木や隣接する読書の森公園との一体感が高まり、緑に包まれながら自由な雰囲気の中で本と触れ合うことができます。

（読書や交流を楽しめる空間を整備）



○1階の窓際には眺めの良いカウンター席を設けるなど、閲覧席を大幅に増設するとともに、多くの希望が寄せられたカフェを整備し、くつろいだ雰囲気の中で読書や交流を楽しめる空間をつくりました。

○ これまでの区の実施（長寿命化の実施②）

【セッション杉並（令和5年8月 リニューアルオープン）】



（談話コーナー・キッズスペース）

○使用スペースの調整等を行い、ロビーの拡張とキッズスペースを整備しました。



（ホール）

○通路幅の拡大やゆとりある座席を確保するなど、ホール機能を向上しました。

○車いす席を設置するなどバリアフリーにも配慮しています。



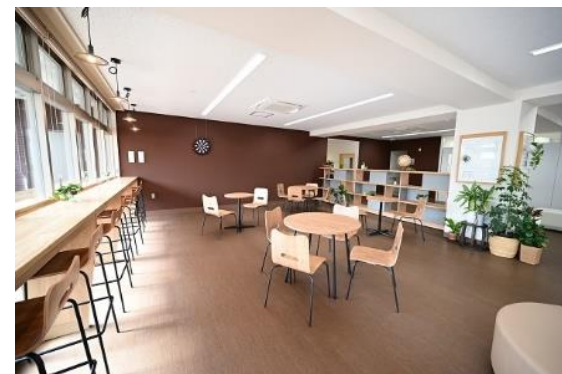
○ 新たな地域コミュニティ施設の創設（ゆうゆう館の機能継承）

- ・一部の施設では**夜間の稼働率が低く、施設の半数以上が築40年以上経過している**など、施設の有効活用や老朽化への対応の観点から施設のあり方を検討してきました。
- ・これまでの計画では、ゆうゆう館を区民集会所や区民会館などと合わせて、**世代を超えた交流・つながりが生まれる新たな地域コミュニティ施設「コミュニティふらっと」**へ機能継承することとし、**高齢者団体の活動場所の確保**と合わせて**施設の有効活用**を進めてきました。

【コミュニティふらっとのイメージ】



【ラウンジ】



○ これまでの取組

【コミュニティふらっと】

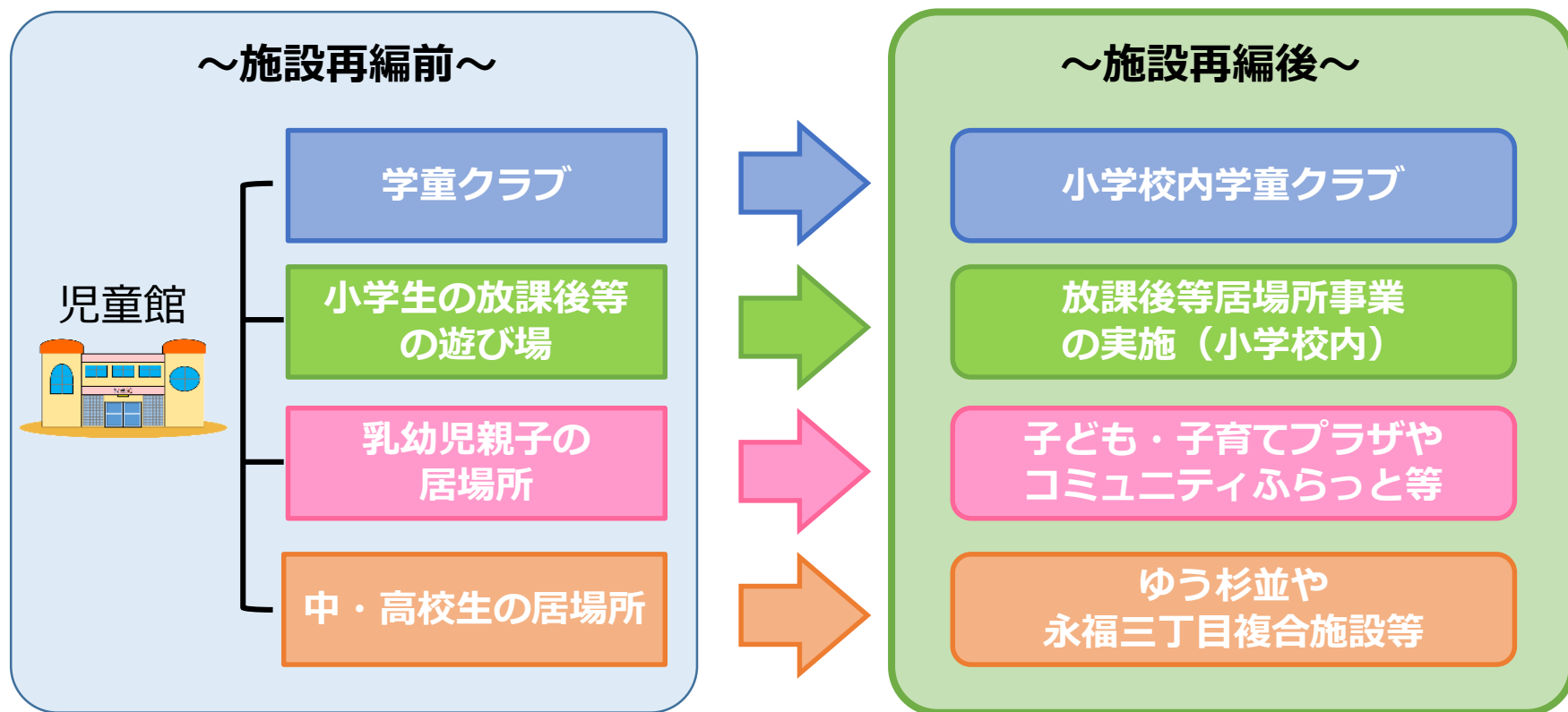
施設名	備考
コミュニティふらっと阿佐谷（転用）	ゆうゆう阿佐谷館を転用
コミュニティふらっと東原（転用）	東原児童館を転用 ゆうゆう阿佐谷北館を機能継承
コミュニティふらっと馬橋（転用）	馬橋区民集会所・ゆうゆう馬橋館を転用 ゆうゆう馬橋館を機能継承
コミュニティふらっと永福（新設）	永福図書館と複合化
コミュニティふらっと成田（新設）	ゆうゆう浜田山館を機能継承

【ゆうゆう館】

施設名	機能継承先	備考
ゆうゆう阿佐谷館	コミュニティふらっと阿佐谷（移転無し）	
ゆうゆう阿佐谷北館	コミュニティふらっと東原（移転あり）	跡地は民設保育所を整備
ゆうゆう馬橋館	コミュニティふらっと馬橋（移転無し）	
ゆうゆう浜田山館	コミュニティふらっと成田（移転あり）	跡地は高井戸子ども 家庭支援センターを整備

○ 児童館再編による子どもの居場所拡充

- ・児童館は0～18歳の子どもたちが気軽に遊べる子育てを支援する施設として役割を果たしてきましたが、特に近年においては社会状況の変化により、**学童クラブを含む小学生の放課後等の居場所や乳幼児親子の居場所に対するニーズが高まってきました。**
- ・ニーズの増加・多様化に伴い、**児童館という限られた施設だけでは対応に限界が生じている**ことから、以下のとおり児童館施設の再編整備に取り組んできました。



○ これまでの取組

【児童館】

施設名	跡地活用
和泉児童館	子ども・子育てプラザ和泉に転用
成田西児童館	子ども・子育てプラザ成田西に転用
荻窪北児童館	財産交換
下井草児童館	子ども・子育てプラザ下井草に転用
高円寺北児童館	民設保育所の整備に活用
高円寺中央児童館	子ども・子育てプラザ高円寺に転用
堀ノ内南児童館	学童クラブ専用館に転用
浜田山児童館	学童クラブ専用館に転用
東原児童館	コミュニティふらっと東原に転用
大宮児童館	民設保育所の整備に活用
成田児童館	民設保育所の整備に活用
永福南児童館	学童クラブ専用館に転用
西荻北児童館	区民集会所として活用
善福寺児童館	子ども・子育てプラザ善福寺に転用

2、施設再編整備計画の検証の取組

○ 検証の視点

これまで区立施設再編整備計画に基づき実施してきた施設の再編整備については、利用者をはじめとした様々な方から多様な意見をいただけてきました。

そうした状況を踏まえ、今後の施設整備を考えていくにあたり、以下の視点から区立施設再編整備計画の「**検証**」を行うこととしました。

- ① 施設再編整備の必要性（計画に定める基本方針を含む）の検証、区民との合意形成について
- ② 地域コミュニティ施設の整備について
- ③ ゆうゆう館の再編（機能継承）について
- ④ 児童館再編の取組について

※現在、検証のまとめ（報告書）を作成中。

令和5年9月に検証結果を報告する予定。

○ 実施したアンケートの概要①

アンケート名・対象	回答状況	設問内容
区立施設再編整備計画に関するアンケート (無作為抽出)	484人／2,000人	計画の目的や基本方針に対する見解、 認知度等について
コミュニティふらっと利用者アンケート	626人／723人	利用満足度、設置目的の達成状況等
講座等参加者アンケート (コミュニティふらっと講座等参加者対象)	311人／341人	講座等（自主事業）の実施効果等
イベント参加者アンケート (コミュニティふらっとの多世代交流イベント参加者対象)	467人／470人	多世代交流イベントの実施効果等
コミュニティふらっと利用者（高齢者団体） アンケート (コミュニティふらっと利用前にゆうゆう館を利用していた 高齢者団体所属者対象)	289人	ゆうゆう館からの機能継承の評価等
子ども・子育てプラザの利用に関するアンケート (施設を利用する乳幼児保護者対象)	404人	設置目的の達成状況、児童館と比較した 満足度、児童館からの機能継承の評価等
放課後等居場所事業の利用に関するアンケート (事業実施校（14校）の児童及び保護者対象)	1,980人／7,896人	事業の利用状況、児童館と比較した満 足度、児童館からの機能継承の評価等
学童クラブの設置場所に関するアンケート (校内学童クラブ（隣接含む）4所に在籍する児童 の保護者対象)	147人／505人	児童館内と小学校内の学童クラブの比 較等

○ 実施したアンケートの概要②

アンケート名・対象	回答状況	設問内容
中・高校生世代の居場所に関するアンケート (コミュニティふらっと永福を利用する中・高校生対象)	61人	ティーンズタイムについて、児童館との比較等
集会施設利用者アンケート (区民集会所及び区民会館利用者対象)	364人／449人	利用満足度、計画に対する見解等
ゆうゆう館利用者アンケート (ゆうゆう館利用者対象)	863人／1,250人	高齢者専用施設と多世代利用施設の比較、コミュニティふらっとへ移行した場合の場所・協働事業への見解等
コミュニティふらっとに移行しなかった団体アンケート (ゆうゆう館から移行しなかった団体の代表者対象)	17人／27人	コミュニティふらっとに移行しなかった理由等
児童館（ゆうキッズ）に関するアンケート (児童館（5館）を利用する乳幼児の保護者対象)	157人	児童館と子ども・子育てプラザを比較した満足度等
児童館（小学生）の利用に関するアンケート (児童館（5館）の対応小学校に在籍する児童及び保護者対象)	839人／2,784人	児童館の利用状況、放課後等居場所事業の移行への見解等
高齢者無作為抽出アンケート (60才以上の高齢者対象、無作為抽出)	462人／1,400人	高齢者専用施設と多世代利用施設の比較、高齢者の活動実態や区立施設の利用状況等

※無作為抽出、施設再編後及び施設再編前の利用者、再編により施設を使用しなくなった方を対象にアンケートを実施。アンケートの内容、結果（速報版）については、区HPにて公開しています。（アンケートの実施結果（速報版）は、「第4回検証部会」の最下部に掲載）



○ 実施した意見交換会等の概要・主な意見①

コミュニティふらっと利用者意見交換会（区内5施設の利用者）

- ・誰もが使えて多世代が交流できる施設という考え方自体は悪くないが、運営の工夫が必要。
- ・「コミュニティふらっと」という名前や施設の外見だけではどのような施設かわからない。
- ・ゆうゆう館や区民集会所は、古くから使っている人が多いイメージで入りづらい。コミュニティふらっとは、比較的オープンなイメージがあり、入りやすかった。

コミュニティふらっと運営事業者意見交換会（運営事業者4者の職員）

- ・ゆうゆう館の機能継承について、ゆうゆう館とコミュニティふらっとの差異については、丁寧に対応していく中で概ね納得いただいていると感じる。施設の周知方法は、もう少し検討の余地があるのではないか。
- ・高齢者専用施設であるゆうゆう館から、多世代型施設であるコミュニティふらっとへ変わったことにより、高齢者以外の利用者が利用しやすくなり、有効活用されていると感じる。

再編整備を一旦休止したゆうゆう館利用者との意見交換会（ゆうゆう館（4館）利用者）

- ・施設再編整備計画について初めて聞いた。自分が使用する施設の再編は知っていたが区全体で取り組んでいることは知らなかった。
- ・今の活動が継続してできるかが重要、移転すると距離的に不便になる。

ゆうゆう館協働事業者との意見交換会（従事者、運営委託法人の職員）

- ・コミュニティふらっとを知らない人も多い、もっと周知すべき。施設の老朽化、限られた財源などの考え方からすれば単独ではなく多世代が使える施設が良い。今まで通り活動できるかが重要。
- ・施設側からの声掛けなどコミュニケーションの継続、関係性の維持が重要。

放課後等居場所事業に関する小学生との意見交換会（実施校（14校）の児童）

- ・そのまま遊べて便利。安心。帰った後も来られる。校庭、体育館で遊べるのがいい。
- ・児童館は一度帰宅してから行くのが少し面倒。遊戯室がいつでも使えていい。

○ 実施した意見交換会等の概要・主な意見②

乳幼児親子の居場所に関する保護者等との意見交換会 (子ども・子育てプラザ(3所)の利用保護者、児童福祉関係者)

- ・乳幼児親子が安心して利用できるのがよい。平日の午後や土日も利用できるのがよい。
- ・同じ悩みを持った保護者が居て、悩みごとなどを相談できるのがよい。
- ・プラザは乳幼児にとってはいいが、多世代の交流はしにくい。

小学生の居場所に関する保護者等との意見交換会 (学童クラブ・放課後等居場所事業(各3所)利用児童保護者、児童福祉関係者)

- ・低学年の親としては、学校から直接行ける放課後等居場所事業はありがたい。
- ・学童クラブと放課後等居場所事業の子どもが交流して、一緒に遊べる機会が日常的にあるといい。
- ・学校に居づらい子どもにとっては、色々な居場所の選択肢があるといい。

コミュニティふらっと永福を利用する中・高校生との意見交換会 (ティーンズタイムを利用する中・高校生)

- ・勉強する際にラウンジをよく利用している。集中して勉強できるのがよい。
- ・2階は静か、3階は話していいとすみ分けされてるのがいい。区内の中・高校生の居場所は少なく感じる。

地域連携に関する意見交換会(杉並区母親クラブ)

- ・ここ10年くらいで、児童館は、学童クラブの子の割合が多くなり、母親クラブとして子どもたちに向けて行ってきた活動がしづらくなったと感じている。
- ・就労していない母たちが交流する場がなく、新たな人間関係を築く場がなくなったことは、地域の子育てにとってデメリット。多世代が交流できる施設(コミュニティふらっと)ができることによって、それがうまく機能できればいい。

○ 実施した意見交換会等の概要・主な意見③

放課後等居場所事業の職員へのヒアリング（事業実施校（14校）の職員）

- ・体を動かして遊びたい子ども、マンガを読んでいるだけで過ごす子どもなど、子どもそれぞれの使い方ができる。
- ・学校内での運営であることの制約がある（学校行事に左右される、学校施設の団体利用があって体育館が使えない、芝生養生期間は校庭を使えないなど）。

学童クラブの職員へのヒアリング（学童クラブ（4クラブ）の職員）

- ・校内にあることで、通所の安全性は保たれている。
- ・校庭や体育館で放課後等居場所事業の児童と一緒に遊べるのが良い。

子ども・子育てプラザ職員等へのヒアリング （子ども・子育てプラザ（6所）及び下高井戸児童館職員）

- ・プラザは親子で遊びに来るところ、児童館は地域の友達づくりのために利用するところ、と目的によって使い分けているとの利用者の声がある。
- ・プラザは土曜日・日曜日も開所しているのがいい、といった意見が多くあった。
- ・妊娠前からプラザを知っていたかということ、知らなかった方も多い。知っていたら妊娠中から利用していた、という声もあるので、PRが課題と考えている。

児童館職員へのヒアリング（児童館（5館）の職員）

- ・多年齢が集まる中で、時間を設定して色々な年代の子が遊べるようにしている。また、子どもが意見できる機会を設けて、遊びの設定をしている。
- ・学童クラブの入会児童が増加していることから、児童館を一般利用する子どものためのスペースが減っている。中・高校生も利用しにくい。
- ・中・高校生のための時間帯を設けても、遊戯室の天井が低く、バスケットゴールが無いなど設備面の課題から、利用が進まない。

○ 実施した意見交換会等の概要・主な意見④

再編整備を一旦休止した集会施設利用者との意見交換会（浜田山会館利用者）

- ・コミュニティふらっとがどのように運用されるのか、区民はイメージできていない。
- ・ゆうゆう館の利用者も浜田山会館に移行してくるなら、部屋を増やしたり、部屋の大きさをコンパクトにする等、多くの人たちが利用できるように対応して欲しい。
- ・多世代交流とは聞こえは良いが、それぞれのニーズは異なっているのでかえって使いづらくなる。

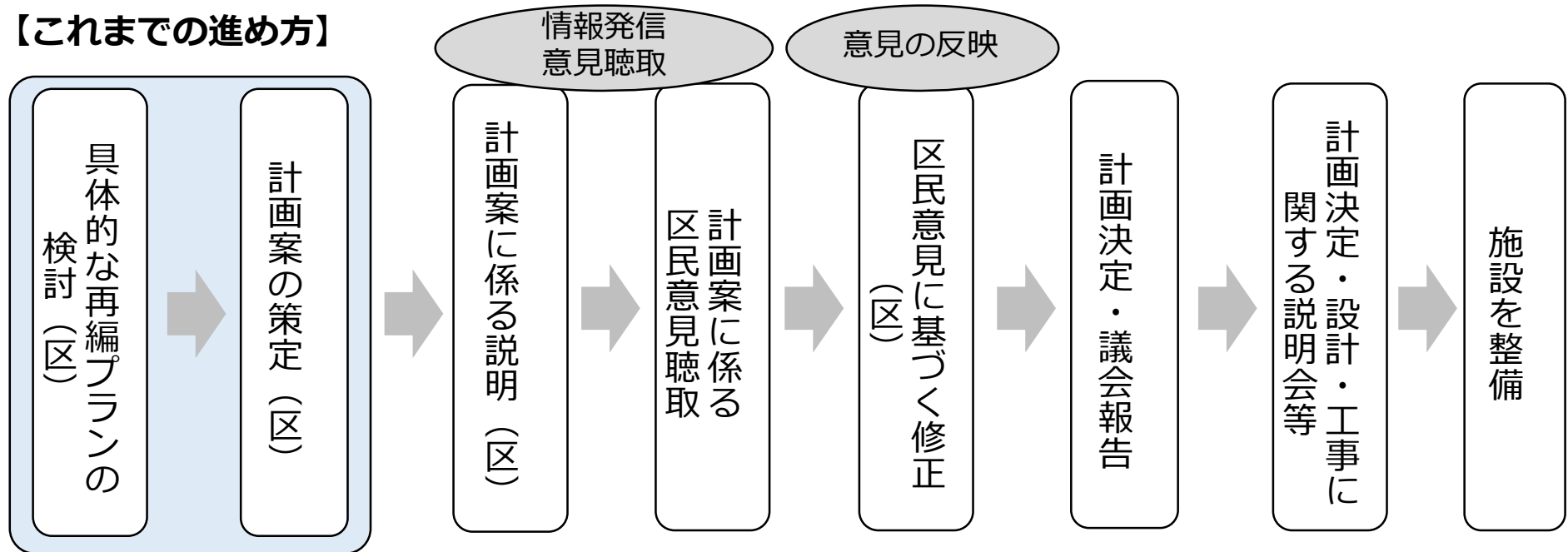
ゆうゆう館の再編整備の検証に関する意見交換会（ゆうゆう館（2館）利用者）

- ・活動が継続して行えることが重要。
- ・子ども達と同じ施設だとぶつかったり、事故が生まれそうで怖い。
- ・移転する場合は、現在のゆうゆう館からあまり離れない場所にしてほしい。
- ・計画に関する説明が不足している。こまめに意見交換の場を設けてほしい。

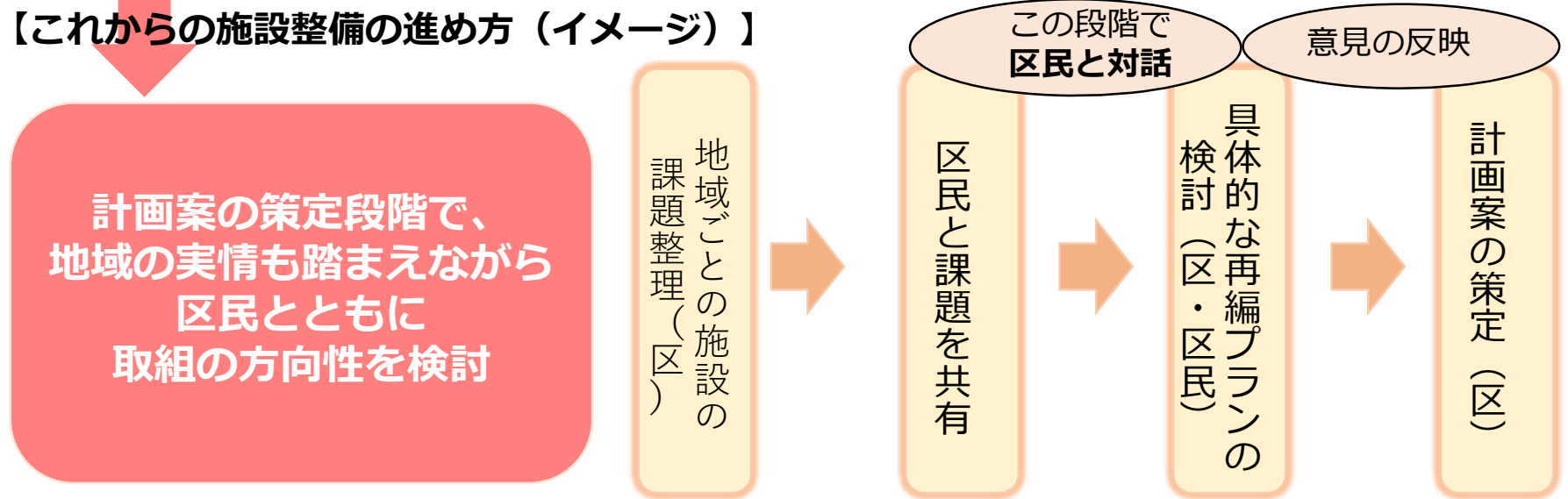
3、 検証過程で見えてきた今後の方向性 （これからの施設整備の進め方）

○ 計画策定プロセスの見直し

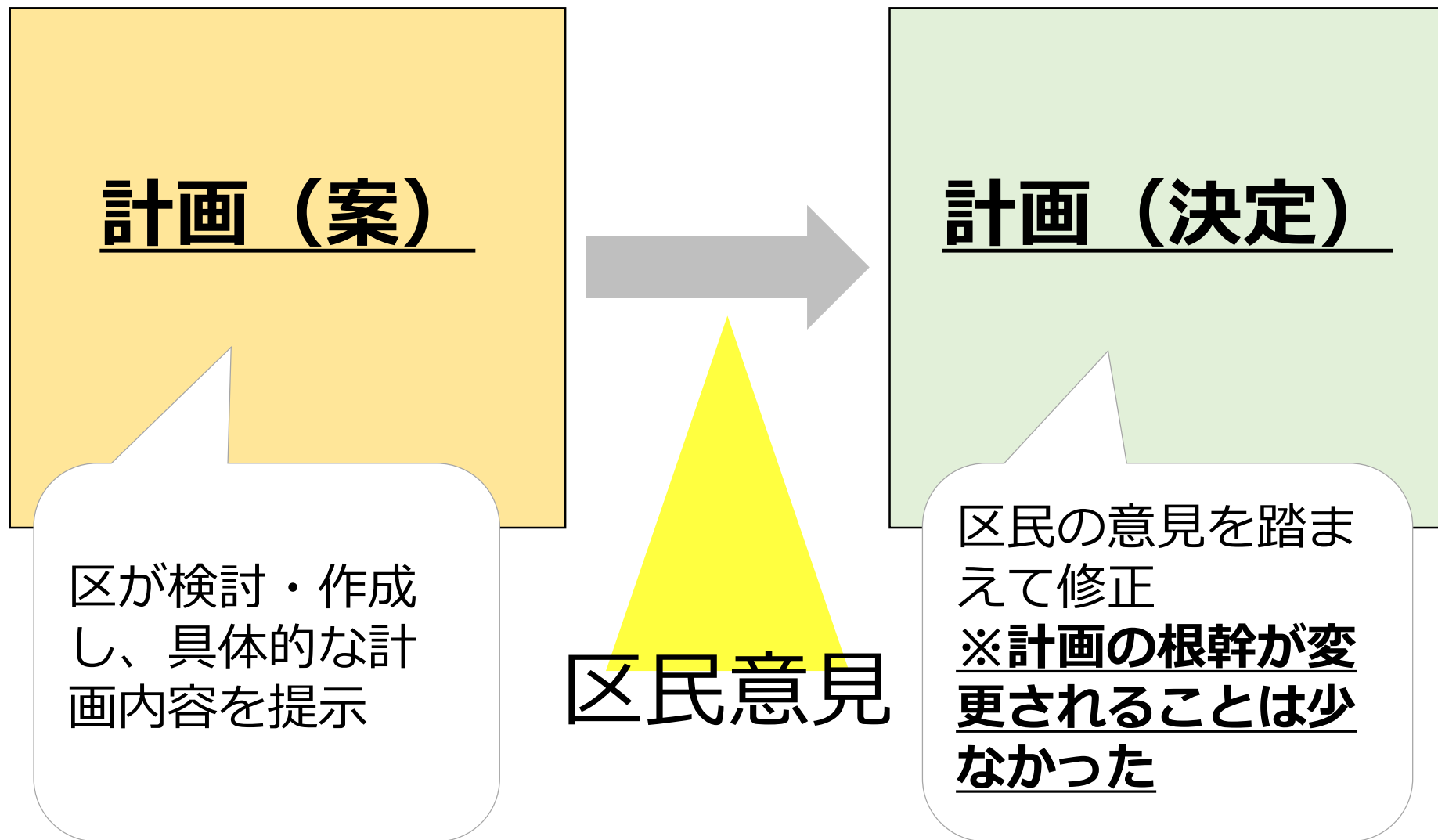
【これまでの進め方】



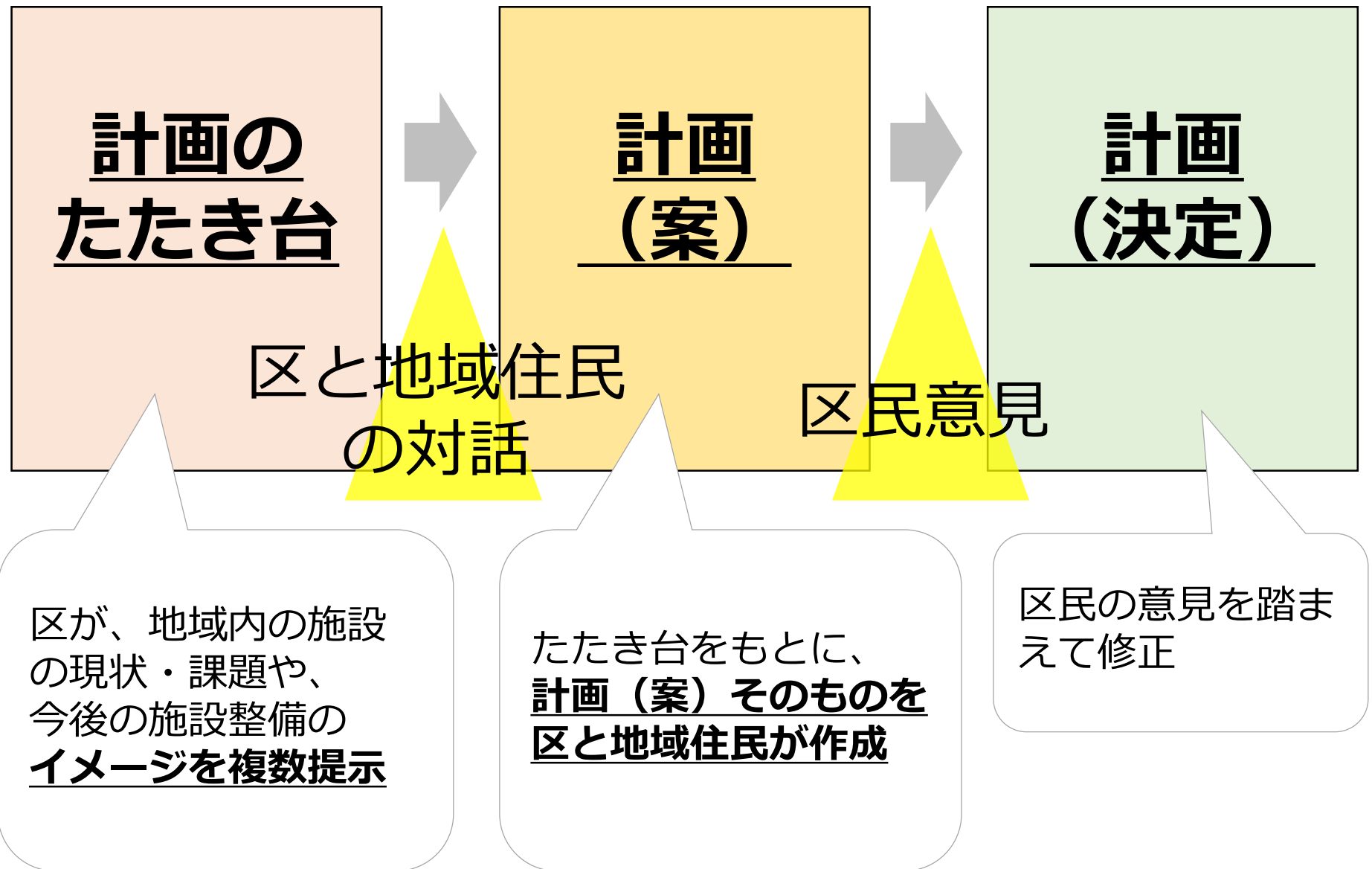
【これからの施設整備の進め方(イメージ)】



○ 計画決定のプロセス（現状）

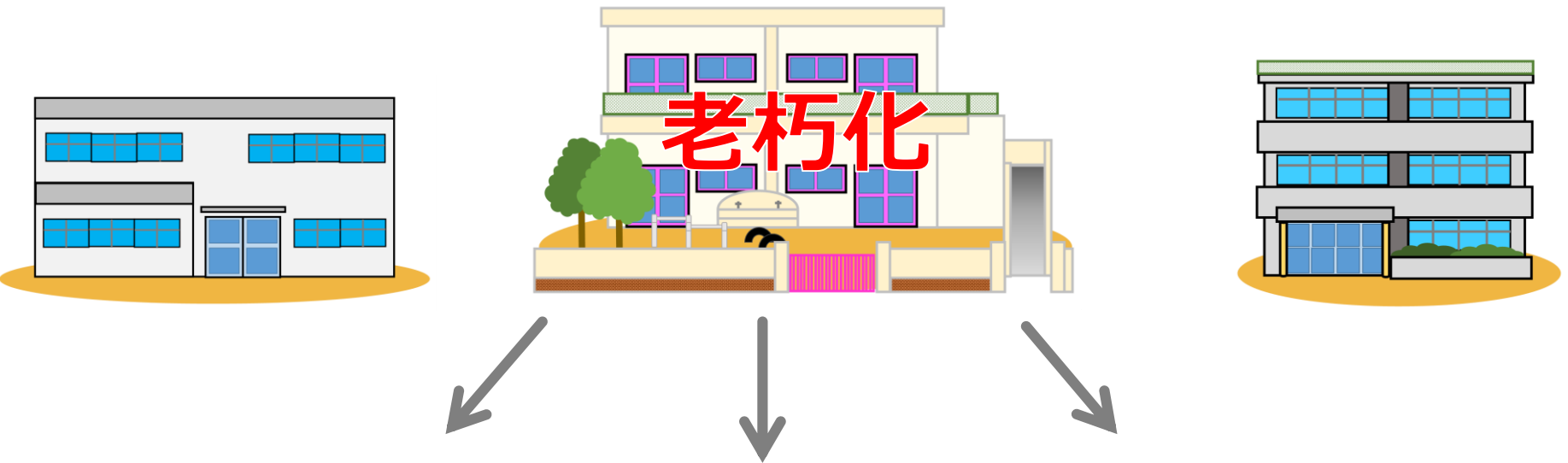


○ 計画決定のプロセス（今後考えられるかたち）



○ 区の示すたたき台のイメージ

※（例）老朽化している施設の更新に伴い、様々な整備パターンを示し、区民とともに検討していく。



パターン1



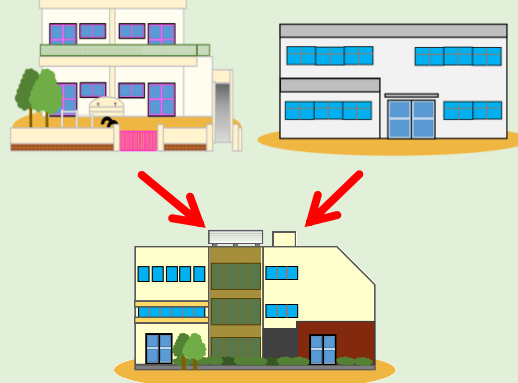
今の施設（用途）
のまま改築

パターン2



他の施設（用途）
へ転用

パターン3



周辺施設との複合化
改築に当たって複合化を検討

○ 7地域での意見交換会の実施

区内7地域において、これまでの再編整備の取組やこれからの施設整備の進め方について、公募や無作為抽出した区民の皆さまと意見交換を実施しました。

【意見交換のテーマ】

- ① 区が考えるこれからの施設整備の進め方についてどう思いますか。
- ② どのような人（利用者、年代等）と検討を進めるべきと考えますか。
また、検討を進める際の人数はどのくらいが適当だと考えますか。
- ③ 意見の聞き方についてはどのような手段を用いればよいと思いますか。
（対話の機会の設定、アンケート、利用者懇談会 etc）
- ④ どのような単位（範囲）で意見を聞いていくべきだと思いますか。
（関係する施設の抽出、学区単位、7地域ごと etc）
- ⑤ 各地域で意見を聞きながら検討を進めていく中で、意見がまとまらない場合、どのように整備の方針を決めていくべきだと思いますか。
- ⑥ 地域ごとに施設整備を検討した結果、地域間で施設の有無（偏り）が生じる可能性がありますかどう思いますか。（○○地域には△△施設があるが、□□地域には無い等）

○ 7 地域の意見交換会で出た主な意見①（グループワーク等）

① 区が考えるこれからの施設整備の進め方についてどう思いますか。

- ・施設再編に限らず行政の計画は決まってから示すのではなく、情報開示が大前提なので、双方で作りあげていく必要がある。区がベースの案を出すときに、必ず複数案を出してほしい。できれば最低3つ。
- ・今までの何が問題だったのか、きちんと説明すべき。区民の意見を計画段階からヒアリングすることは大事。
- ・「知っている範囲でしか考えられない」ので、行政と住民たちが一緒に学びあう「勉強会」のような仕組み、プロセスが必要では。
- ・財源についても合わせて考えていく必要がある。

② どのような人（利用者、年代等）と検討を進めるべきと考えますか。 また、検討を進める際の人数はどのくらいが適当だと考えますか。

- ・現在の施設利用者。小・中高生、若者など（将来の利用者）。無作為抽出、一般公募等多様な参加者で。
- ・その施設の利用者、その施設の周辺に住む人の意見をまず聞いてほしい。
- ・働いている人の意見も。目安箱等。パート、正規職員で意見の重みを変えない。
- ・検討は7, 8人を1つのグループとして10グループ程の意見を集約。

③ 意見の聞き方についてはどのような手段を用いればよいと思いますか。 （対話の機会の設定、アンケート、利用者懇談会 etc）

- ・SNSで（Googleフォームとか簡単にできる）アンケートをとる。施設に足を運ばなくてOK。
- ・アンケートだけでは細かなニーズを聞きとれないので、何らかの対話形式がよさそう。利用者懇談会が有効。
- ・ネットもうまく活用してほしい（若年対策）、YouTube Liveならチャットで意見もとれる。
- ・すくにくい意見はワークショップなどで聞けばよいのでは。素直な意見がきけそう。

○ 7地域の意見交換会で出た主な意見②（グループワーク等）

④ どのような単位（範囲）で意見を聞いていくべきだと思いますか。 （関係する施設の抽出、学区単位、7地域ごと etc）

- ・ 7地域が最大。小学校区が最小。現在ある施設の半径〇〇m以内など。
- ・ 小・中学校区だと単位としてまとまりやすいのではないかと（愛着もある）。
- ・ 意見を聞いていく単位は、関係する施設の利用者、町会、自治会関連の方たち。
- ・ 「〇丁目」とかそういう単位ではなくその地域ごとの公共空間（ex:商店街とか）で考えるとよいのでは。

⑤ 各地域で意見を聞きながら検討を進めていく中で、意見がまとまらない場合、 どのように整備の方針を決めていくべきだと思いますか。

- ・ 最後は区長が判断（全員納得するのは困難）。緊急度を見極めることが重要。
- ・ ある程度意見を踏まえて2～3案まとめて、コストなどを考えて区が決める。
- ・ 意見がまとまらない場合、まとまる（納得するまで）時間をかける（見切り発車しない）。
- ・ 無作為抽出で投票をするなど、声の小さい人の意見をすくう。

⑥ 地域ごとに施設整備を検討した結果、地域間で施設の有無（偏り）が生じる可能性がありますか。どう思いますか。（〇〇地域には△△施設があるが、□□地域には無い等）

- ・ 地域間での偏りの有無はあっていい。地域によって人の生活は異なる可能性があるため。ただし、行政の一方的な決断で偏りがあることは例外。
- ・ 地域特徴を生かした施設を。平均的に置かなければいけないものと特性に応じたものを。
- ・ 偏りはある程度許容。駅周辺を中心に集約。公共交通を確保して偏りをカバーする。
- ・ できれば公平性を求めたいが、住んでいる人の年齢層やニーズを考えて、限られる財源をもとに地域の特性を考えてもいいのかも。住んでいる人に意見を求める。

○ 7 地域の意見交換会で出た主な意見③（全体共有時）

- ・住民と行政と専門家がバランスよく、手を取り合っ一緒につくることが大切だと思う。そして、透明性をもって。
- ・こういう会に若い世代などが入ると良いと思う。計画が決定する前にこういう会があってよかった。大人の道徳の時間だったと思う。自分の意見だけでなく、譲り合いの気持ちが大事だと思った。
- ・建物だけではなく、建物をどのように活用していくか考えることが必要。関係する皆が共通のビジョンを持って検討できると良い。
- ・やり方が違うから結果も違ってくる。杉並区の独自のやり方、すすめ方を発明しましょう。結果を変えたかったら、やり方から変えよう。今日のやり方がとても素敵だった。
- ・公共施設が楽しいまちづくりに貢献するという視点をもって欲しい。各地域に特徴的な施設があった方が良いのではないか。施設にしても、公園にしても運営の部分が大事だと思う。
- ・意見が合わないときにどうするかテーマが難しかった。全員の意見が叶うことはないが、「最低限これは」という部分を話し合いの中で落とし込み、実現できたら良い。
- ・地域のことは地域の人がよく知っているので、地域の意見をよく聞いてほしい。例えば、少子化一つとっても、地域で実情は異なる。地域の課題を拾うところから地域が参画することを必要としている人がたくさんいる。
- ・今回の意見交換会を通して、行政が住民の自主性を信じて任せ、行政から住民に対してはわかりやすい説明を重ねていくことで、行政と住民の信頼関係を見直すことに繋がるのではないかと思った。また、行政の組織体制が縦割りだけでなく、横の繋がりができるように見直せると良いと思った。
- ・区民の特性として、言いたいことを言って自分たちがやりたいことを主張するが、時間がかかる。こういう場に出てきてそれぞれが責任を持つような区民が増えると良い。
- ・公共施設の新しいカタチを考えることを通して、杉並の新しいカタチを考えたいと思った。公共施設は多面的に見たい。地域も人も持続可能であって欲しい。いろんな意見が言える杉並であって欲しい。住んでいて良かったと思いたい。

○ 今後のスケジュール

- ・ **施設再編整備計画の検証まとめ（令和5年9月）**
※児童館再編については、検証結果を踏まえ、今後のより良い子どもの居場所のあり方について、別途検討組織を立ち上げ、令和6年度を目途に考え方を整理する。

- ・ **区立施設再編整備計画の改定（改定は今年度中）**